

会員さん からのお便り



このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りが載って 嬉しかったです

広島県・Sさん（イニシャル） 50歳代 女

4月号にお便りを載せてもらいました。5月号では山形県のYさんに「私も同じ、専門職の方を引き寄せて」とご意見を寄せていただき、本当に嬉しかったです。80歳の母の認知症の変な症状に私はビックリしてめまいがしてくるのですが、私だけではないようで少し安心しました。

「家族の会」に入会することに決め、入会申込書を一生懸命書きました。入会して良かったと思っています。広島の木もれびの会に行きました。年輩の会員さんは色々と親切に教えて下さり、それでやっと本で勉強したことと、現実がつながりました。

今、母はデイサービスに行けるようになりました。近所に住む妹夫婦を少しでも助けようと、介護の勉強は続けています。

優しい祖母の笑顔に

高知県・Aさん 30歳代 女

今年で92歳になる祖母はアルツハイマー型認知症と診断され、約10年。現在は特別養護老人ホームでお世話になっています。

要介護5で会話も成立しない事がほとん

どですが、保育園児の子供たちを連れて面会に行くと、嬉しそうに私の弟や従兄の名前で呼びます。子供たちは「名前違うよ」と不満気味ですが、祖母はニコニコ笑顔で語りかけます。その姿は私が子供の頃に見ていた優しい祖母の笑顔そのもので、胸がいっぱいになります。認知症になっても心は生きていると思える瞬間です。

小さな幸せを感じて

兵庫県・Bさん 60歳代 女

母が認知症になったおかげで「人は自分が必要とされていると思う時、幸福になる」という言葉を実感する毎日です。おかげで主人との会話が増えました。大変なこともある忙しい日々ですが、「小さな幸せ」の大きさを知る毎日です。

療養というけれど…

山形県・Cさん 40歳代 女

実母は要介護3で認知症です。父母二人暮らしだったのが、父の死で一人になりました。一人暮らしはとても無理なので、ケアマネ、親戚と相談し、入院させました。今は施設入所を目指した療養中です。母は、徘徊したり、他人や病院の物を物色したり持ち出したりします。問題行動のため、施設から入所を断られています。

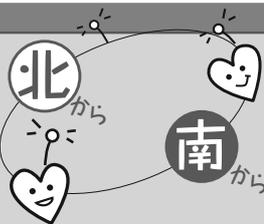
入所できるよう、本人の意思を抑えていき、おとなしくなるよう投薬しているように感じます。「療養中」というのは何なのかとってしまいます。この病院でなくても、どこに行っても同様なのでしょうから、悩むだけです。

でも、母はそんな晩年を過ごさなければならぬ人ではありません。認知症を患っただけです。

141 支部だよりにみる

介護体験

今回は
長野県



介護体験から得たもの「悲泣から感謝」

長野県支部 中山昭雄

長野県支部版
(2015年5月号)

●なぜ、自分ばかりがこんな苦勞を…自殺すれば楽に

私は体調不良のため早期退職し、待っていたかのように父が心臓病で入院を繰り返し自宅介護。終末期には軽度の認知症も発症、家族の介護も実らず9年前に父（93歳）を見送りました。

介護疲れからホッとした5ヵ月後位から、母の認知症（アルツハイマー）も進み始め、入退院・自宅介護（2年6ヵ月）が始まりました。デイサービス、ショートステイ、ヘルパー等の利用最中に転倒骨折し、数ヵ月入院し退院後は車椅子生活（要介護5）になりました。家族が働いているため私一人が介護し、一日中母の部屋で過ごし閉じこもり状態、介護によるストレス、腰・膝の痛みも出て、「なぜ、自分がこんな苦勞をしなければいけないのだ!」と自問自答した事が何回もあり、母と共に自殺すれば、楽になれるだろう…と何回も思いましたが、母の笑顔を見るとどうしても出来ませんでした。友人が電話で「今、死んでしまったらお母さんはどうなるの!? 死んでも何もならないよ、皆が応援しているから!」の一言で我に返り、母にすまない、母のために頑張ろうと勇気をもらい、今でも友人に感謝しています。

●近所の方々に感謝

ヘルパーの仕事のみをみて介護の参考にし、認知症について多少は知っていたが、県内の講演会・セミナー等で知識を得て、県市の審議会に協議したり、色々な資格も取得しました。今はボランティアをして恩返しのつもりで色々活動しています。前から母が認知症だと近所に話しておいたためか、

食事の差し入れ、話し相手等助けて頂き、大変感謝しています。

●母を施設入所させて思うこと

今、後悔している事は究極の選択として母を施設入所（5年目）させた事です。自分を取るか、年老いた母（97歳）を取るか悩みに悩みましたが、一晩に4～5回起こされる事が続き、これ以上続いたら家庭が崩壊してしまう、また自分の身体が限界で入所をやむなく決断しました。母には「さみしい」思いをさせ、今でも「すまない」と思う気持ちでいっぱいです。分かっているのでしょうか？

●家族の願いと感謝

自分達の顔が判らなくなって2年半たちますが、今大声でさげびたい! 産んでくれて、育ててくれてありがとう! もう一度生まれるなら母さんの子供でいたい!! ありがとう…と。

これは私達家族の心からの願いです! 一日でも一時間でも、一分でも一秒でも長く生きてください!! 可愛い曾孫も出来ました。そして、今日もまた母の笑顔を見るため、施設に車を走らせる毎日です。

●介護する人に一言

最後に、「心の切なさ・悲しみ・苦しみ」をはっきり口に出してさげぼう!!

そして私は思う「運命は変えられるが、宿命は変えられない…」そして「認知症でも心は生きている!!」と。

介護の苦しさ、辛さは介護を体験した者でなければ決して理解できないと思う毎日です…。

●「家族の会」日本全国の支部の活動を紹介します。



熊本県支部

ダンスに拍手喝采

日頃から歌い慣れているご本人さんが歌いだした途端、舞台上上がって踊りだすご本人、パートナーを見つけてダンスを始める人に拍手喝采。熊本県支部独自で5月10日に菊南温泉ユーベルホテルで日帰りのリフレッシュ交流会を開きました。ご本人11名と共に総勢47名がホテルの懐石料理、ボランティアグループ「オカリーナ」さん達のギターを楽しみました。「初めての参加でしたが主人の大好きなカラオケ、美味しいご馳走に満足」「いろんな方との交流が励みになりました」との声があり、皆さん一体になれた交流会になったそうです。

大阪府支部

バリアフリー展で介護相談をしました

大阪府支部では4月16日から18日の3日間、西日本最大級の総合福祉展「バリアフリー展」に参加。支部も大きな幟を立て「認知症の家族支援コーナー」を設置。介護相談に応じたり「家族の会」のPR、認知症の啓発パネルを展示しました。このバリアフリー展には、介護用ロボットから施設関連の機器等、様々な福祉用具の企業が参加しています。この3日間で全国から10万人以上が集まり、介護相談には1日30人以上の方が来られ色々な相談に対応しました。「真剣そのものでした」と坂口代表が語っておられました。

静岡県支部

富士山に見守られ桜を満喫

静岡県支部若年性のつどいでは、毎年皆さんから花見をしようと声が上がリ、今年も3月31日に富士市岩本山公園で開催。好天に恵まれ桜は一気に満開、本人一人を含む14名の参加がありました。早速ブルーシートを広げ持ち寄りの手作り弁当、お菓子が配られ桜の下の食事に話が弾みどなたも笑顔、笑顔。富士山も桜の合間から見守ってくれました。富士山の眺望、足元を流れる富士川の清流に爽やかな清々しいひと時を過ごすことが出来ました。「毎年会員さんから先に電話がかかって来るんですよ」との佐野代表の言葉が印象的でした。

埼玉県支部

20年以上続く交流学習会

埼玉県支部ではもう20年以上続けている「埼玉の老人福祉を考える会」との交流学習会を2月25日市民会館「うらわ」で開催。「家族の会」会員36名、施設の方29名の参加で日ごろ施設や介護サービスを利用している会員さんたちの疑問に答えて頂いたり、アドバイスを受けたり向上に努める学習会です。ベッドが二つも空いているのになぜショートステイが使えないの？それは「緊急用に」とのこと。思い続けた疑問が解けたそうです。簡単なことでもわからないことだらけ、いろいろ知ってもっと賢い利用者にならねばと参加者は異口同音に話していたそうです。

国際交流委員会発

地球家族

ケアでつながる

●イギリスの巻



雇用主向け 認知症の人の就労ガイドブック

認知症の方の就労は日本でもいくつかのガイドブックなどが出されていますが、イギリスのアルツハイマーソサエティ*が今年4月発行した「認知症にやさしい職場づくりー雇用主のためにー」を紹介いたします。

イギリスの認知症の人の数は、現在85万人、そのうち4万人が65歳以下であり認知症の人の就労は政策としても取り組まれています。2010年に施行された「平等法 (Equality Act)」によって、雇用主は認知症の人が職場で差別されないようにし、また本人と家族が不利益を被らないよう調整を行うことが求められており、この冊子はその実践のために発行されました。

内容は「認知症の基礎知識、雇用主の法的義務、職場での啓発アイデア、段階に沿った援助方法と本

人の体験談、関連情報と組織一覧」で、具体的方法が示されています。例えば、「本人から認知症の診断を受けたと報告されたとき」という項目では「まず、本人がこの報告をするためにどんなに勇気が必要だったかをよく理解し相手に話しかけること。そしてこれまでの本人の経験と技術を認め、まだできることがあると伝える」など具体的なアドバイスが書かれています。

2017年に日本で開催されるADI国際会議では、各国から認知症の人の就労についての発表が行われるものと思われます。世界中の経験と知恵を集めて認知症の人が働くことのできる環境づくりを前進させる機会になるように願っています。

*アルツハイマーソサエティ：イギリスの認知症の人と介護者の支援を行う団体。「家族の会」と同様、国際アルツハイマー病協会に加盟している。

*参考) 認知症の人の就労ガイドブック：

alzheimers.org.uk/employers
(国際交流委員 鷲巣典代)

